

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 5 月 31 日現在

機関番号：15401

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2014～2016

課題番号：26370663

研究課題名(和文)日本のドイツ語教育における授業内容と語彙数および語彙プロフィールの関連について

研究課題名(英文) Relations between the contents of lessons and vocabulary profiles in German language education in Japan

研究代表者

岩崎 克己 (IWASAKI, KATSUMI)

広島大学・外国語教育研究センター・教授

研究者番号：70232650

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,500,000円

研究成果の概要(和文)：本学で過去に選定した語彙リストの中からパイロット調査を基に基礎動詞100語を選び、1年生のドイツ語学習者523人に対し4択形式の語彙テストを実施した。また担当教員16人に対しても授業の際の重点に関するアンケートを行い、関連を分析した。その結果、一般クラスとインテンシブクラスの平均点は各々62.1と84.9であり、使用教科書における調査語彙のカバー率と点数には相関がなく、点数と各教員の授業における重点に関しては「自分のことを表現する」と「きれいに発音する」に比較的高い正の相関が見られた。また、個々の動詞の平均正解率は0.64であり、正解率のピークを規準にすると4つの特徴的なグループに分類できた。

研究成果の概要(英文)：After conducting a pilot study, we selected 100 basic German verbs, made a multiple choice test, and evaluated the abilities of 523 first-year students. We also conducted a questionnaire on 16 teachers in charge of the German classes, concerning which teaching aspects and extra instructions were considered important in the classes. The results of analyses showed: (1) the average test scores of the general and the intensive classes were 62.1 and 84.9, respectively, (2) there was no correlation between the coverage rate in the textbook used in each class and the average score of the vocabulary test, (3) with regard to teaching aspects and extra instructions in each lesson, a relatively high positive correlation to the average score was seen in the aspects "to express oneself" and "to pronounce clearly." (4) The average accuracy rate of individual verbs was 0.64, and when the peak of the correct answer rate was taken as a criterion, it could be classified into four characteristic groups.

研究分野：人文学

キーワード：ドイツ語教育 語彙研究 e-ラーニング CALL

1. 研究開始当初の背景

日本の大学における初・中級段階のドイツ語学習者の語彙を問題にする際、これまでは、学習者が使用している教科書の使用語彙を論じることが、あたかも学習者の獲得語彙を論じることであるかのような議論が行われてきた。そのため、教科書に含まれる語彙の調査は行われても、たとえば1つの大学におけるドイツ語学習者のほぼすべてを対象とするような比較的規模の大きな語彙の実態調査は、過去に例がない。

また、カリキュラム・教材・授業の頻度や授業での重点の置き方により、学習者の語彙獲得のプロセスがどのような影響を受け、実際どの段階でどの語彙をどの程度獲得しているかについての実態も、ほとんど分かっていない。さらには、オンラインドリルをはじめとする自学自習や、ゲーム型教材の利用、協調学習型作文プロジェクトの実施などの多様な形態で行われるCALL実践が実際の語彙獲得にどのような影響を与えるかについての実証研究も、ドイツ語CALLの分野ではまだ手つかずの状態である。

他方、学習者が優先的に獲得すべき語彙をどう考えるかという基礎語彙についての研究では、コーパスを用いた頻度順のアプローチや言語機能の観点で語彙を評価するコミュニケーション・アプローチによって、たとえば機能語や動詞を中心に一定数の「重要語彙」は明らかになりつつある(岩崎 2012)。しかし、多様な語彙と共起し得るそれらの「重要語彙」が初級段階の学習者においては実際に、他のどのような語彙と使われているかという観点での周辺語彙の評価作業もまだ行われていない。

2. 研究の目的

本研究の主たる目的は、選択必修を前提とした週2回の一般的なドイツ語クラスや、学習意欲の高い学生を対象に週4回行うインテンシブクラスなど、日本の大学で見られるいくつかの学習条件において、ドイツ語クラスの学習者が、実際にどの程度の数のどのような語彙を獲得しているかの実態解明を行うことである。

その際、使用教科書の違いや、教員の側の関わりによって、学習者の語彙数やその種類にどのような変化が見られるか、また、そもそも語彙の難易度に関して何らかの特徴が見られるかについても明らかにする。学習者の獲得語彙の実態を明らかにすることは、ドイツ語の語彙指導に直接役立つと共に、基礎語彙選定のための議論にも経験的な裏付けのある形で貢献できる。

なお、ゲーム型教材・オンラインドリル等の自学自習用教材の利用や、協調学習型作文

プロジェクトなどのブレンデッド型学習の枠組みにおけるCALL実践を通じて、そうした語彙数および語彙プロフィールにどのような変化が現れるか等についての基礎データを集めることも本研究の副次的な目的である。

3. 研究の方法

本研究では、中堅的な総合大学である広島大学における複数のタイプのドイツ語授業の受講者を対象に、数百名規模での語彙調査を行う。

そのため、計画の初年度である平成26年度は、広島大学で過去に選定した語彙リスト(<http://home.hiroshima-u.ac.jp/katsuiwa/grundwortschatz.htm>)を参考に、名詞・動詞各110語と形容詞55語、計275語からなる5択式のドイツ語語彙テストを作成し、それらを使った小規模のパイロット調査を実施した。また、その結果を基に本調査で使う語彙項目の再検討を行い、語彙テストの改善を図った。

また語彙テストで扱った上位55個の動詞に関し、IDS (Institut für Deutsche Sprache) の話し言葉コーパス DGD (Datenbank für Gesprochenes Deutsch) の6つのコーパス (Berliner Wendekorpus, Dialogstrukturen, Forschungs- u. Lehrkorpus für gesprochenes Deutsch), Grundstrukturen: Freiburger Korpus, Deutsche Standardsprache: König-Korpus, Deutsche Umgangssprachen: Pfeffer-Korpus) を使って、それらと共起する名詞の頻度の高いものを調べた。

さらに、次年度以降の研究に必要な条件整備の一環として、研究代表者が過去において科学研究費補助金(基盤研究C一般:課題番号23520676)の支援を受けて開発したオンライン型読解支援プログラム OLES の改善を行った。その際、特に、テキスト再生課題における語彙の再生プロセスを詳細に記録する機能を新たにつけることで、OLES を CALL 実践が語彙学習に与える影響を調べるためのツールとしても利用できるようにした。

計画の2年目に当たる平成27年度は、初年度に行ったパイロット調査を基に調査する語彙項目を絞り、最終的に以下の100語の動詞に関し、広島大学の1年生の全てのドイツ語クラスを対象に、5択形式の語彙テストを行い、523人分の学習語彙データを収集した。

abfahren/ abholen/ anfangen/ ankommen/
anrufen/ antworten/ arbeiten/ aufpassen/
aufräumen/ aufstehen/ bekommen/ benutzen/
bestellen/ besuchen/ bleiben/ brauchen/ bringen/
danken/ dauern/ einkaufen/ einladen/ empfehlen/

erklären/ essen/ fahren/ feiern/ fernsehen/ finden/ fliegen/ fragen/ geben/ gefallen/ gehen/ gehören/ glauben/ halten/ hängen/ heiraten/ heißen/ helfen/ hören/ jobben/ kaufen/ kennen/ kennen lernen/ kochen/ kommen/ kosten/ laufen/ legen/ lernen/ lesen/ liegen/ machen/ meinen/ nehmen/ öffnen/ parken/ putzen/ rauchen/ regnen/ reisen/ reparieren/ sagen/ schenken/ schicken/ schlafen/ schließen/ schmecken/ schneien/ schreiben/ schwimmen/ sehen/ sich freuen/ sich setzen/ singen/ spazieren/ spielen/ sprechen/ stehen/ stellen/ studieren/ suchen/ tanzen/ tragen/ treffen/ trinken/ umsteigen/ vergessen/ verkaufen/ verstehen/ vorstellen/ warten/ waschen/ werden/ wissen/ wohnen/ zahlen/ zeigen/ zurückkommen

また授業内容と語彙数および語彙の実態との相関を見るための基礎データとして、調査対象となったドイツ語授業で使われていた以下の15冊の教科書に含まれる全動詞の語彙調査も同時に行った。

1. 林久博 / 鶴田涼子 (2015): とともに学ぶドイツ語. 白水社. ISBN 978-4560064139.
2. 飯田道子 / 江口直光 (2015): アプファールト<ノイ> スキットで学ぶドイツ語. 三修社. ISBN 978-4384122817.
3. 荻野蔵平 / Tobias Bauer (2015): 大学生のドイツ語教本「青春はうるわし」. 朝日出版社. ISBN 978-4255253794.
4. 新野守広 / Rita Briel / 佐藤修司 / 茅野嘉司郎 / 松岡幸司 (2013): シュトラッセ. 朝日出版社. ISBN 978-4255252661.
5. 斎藤佑史 / 荒木詳二 (2010): おもしろドイツ! 異文化への招待. 郁文堂. ISBN 978-4261012392.
6. 田中雅敏 / 筒井友弥 (2013): みるみるドイツ語. 同学社. ISBN 978-4810207392.
7. 嶋田由紀 / 亀井伸治 / 胡屋武志 / 小笠原能仁 (2007): 30日で学べるドイツ語文法. ナツメ社. ISBN 978-4816344329.
8. 岩崎克己 / 田中雅敏 / 吉田光演 (2005): ハンブルクの夏 初級ドイツ語総合教材. 郁文堂. ISBN 978-4261012040.
9. 本田和親 (2000): 基本ドイツ文法. 同学社. ISBN 978-4810208511.
10. 山本淳 (2010): じゃあ、またあした! 同学社. ISBN 978-4810207316.
11. Angela Braun / Antje Seidel / Robert F. Wittkamp / 和泉雅人 (2000): 改訂版・あっ、そう! 同学社. ISBN 978-4810209520.
12. 佐藤正樹 / 佐々 れい (2011): ライン川ドイツ語紀行. 白水社. ISBN 978-4560064078.
13. 板山真由美 / 塩路ウルズラ / 本河裕子 / 吉満たか子 (2003): 自己表現のためのドイツ語(1). 三修社. ISBN 978-4-384-12227-6.
14. 板山真由美 / 塩路ウルズラ / 本河裕子

/吉満たか子 (2012): 自己表現のためのドイツ語 2. 三修社. ISBN 978-4-384-12277-0.

15. 板山真由美 / 塩路ウルズラ / 本河裕子 / 吉満たか子 (2014): ベーシック版自己表現のためのドイツ語 plus. 三修社. ISBN 978-4-384-13074-4.

さらに、調査した18クラスの授業を担当した16人の教員に対しても、授業での重点・語彙の扱い・文法の扱い等に関し、以下の3項目を中心とするアンケートを行った。

学習開始1年目の授業では主にどこに重点を置いて指導していますか。

1. 日常的な会話。
2. 正確に読み解く。
3. 日本語に訳す。
4. 大意をつかんで読む。
5. 正確な文章を書く。
6. たくさんの文章を書く。
7. 正確に聞き取る。
8. 聞いた内容をおおまかに理解する。
9. 自分のことを表現する。
10. 文法についての知識。
11. ドイツ語圏の社会・文化に対する知識。
12. きれいに発音する。

学習開始1年目の授業では語彙はどのように扱っていますか。

1. 1年間で学習すべき単語をあらかじめ単語集 / 語彙リストなどの形で与えている。
2. 文法や文の構造等を説明する際の例には、意識的に重要語彙を使うようにしている。
3. 重要語彙は授業の中で意識的に繰り返し使うようにしている。
4. 授業の中で同じ領域の単語をまとめて教えるようにしている。
5. 語彙を増やすことを意識した宿題を出している。
6. 既知の語彙を繰り返し使うことを意識した宿題を出している。
7. 定期的に単語テストなどを実施している。
8. 単語帳等を作るよう指導している。
9. 自然に学ぶことを期待し、特に何もしていない。

学習開始1年目の授業では文法をどのように扱っていますか。

1. 発音から接続法まで、しっかりと学ばせる。
2. 発音から接続法まで、多少は簡略化しても一通り学ばせる。
3. 必要最小限の項目にとどめて、もっと練習量を増やす。
4. 会話や言語活動に重点を置き、その都度必要な項目を取り上げる。
5. 従来の順序にこだわらず、必要と思われる項目を重点的に取り上げる。

さらに、計画の初年度に実現した、STORYBOARD 型テキスト再生プログラム OLES の語彙記録の機能を使って、既習語彙の再生プロセスも調査した。また、将来的に語彙に対する反応速度を測るプログラムを開発するためのパイロットケースとして数字の学習ゲーム「数のおけいこ」を開発した。

計画の最終年である平成 28 年度は、前年度末に実施した語彙テスト、教科書の使用語彙調査、および授業担当教員 16 人に対するアンケート調査の結果を集計・分析した。結果に関する詳細な報告は(岩崎 2017)参照。

4. 研究成果

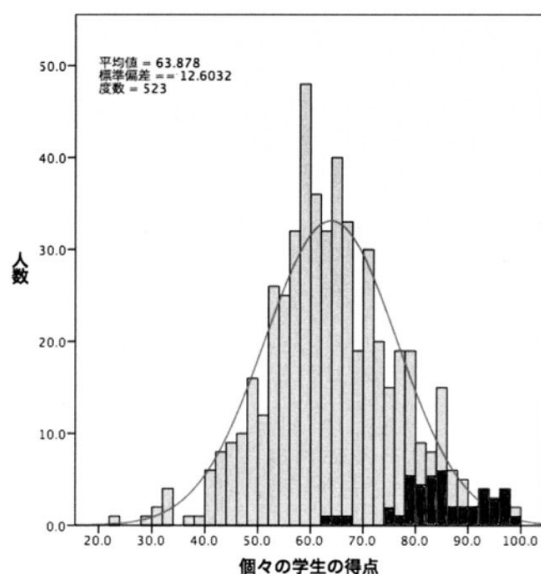
今回の調査から分かったことを次に挙げる 3 つの観点から簡単にまとめると以下のようなになる。(なお括弧内の数字はいずれも相関係数)

分析の観点

- 1) 基本動詞 100 語に対する個々の学生の成績分布と全体の傾向
- 2) クラスごとの成績分布とそれに影響を与えた要因についての検討
- 3) 本テスト正解率や教科書での使用率を手がかりとした個々の動詞の分析

上記にあげた動詞 100 語の語彙テストの一般クラスとインテンシブクラスにおける平均点はそれぞれ 62.1 と 84.9 であり、学習意欲と学習時間により、語彙力にはやはり顕著な差が出た。

図 1：全学生 523 人の得点分布



註：黒塗りの部分は全 19 クラス中 2 クラスあるインテンシブコース所属の学生の成績。

集団全体の成績は正規分布しているが、各クラス内は、むしろ語彙力に差のある複数のグループに分かれている場合が多い。

個々の語彙に着目すると、教科書に出現した語彙の各クラス平均しての使用率と正解率には正の相関 (0.54) がある。しかし、個々の教科書における調査語彙のカバー率と語彙テストの成績には相関はなく、語彙のカバー率の多い教科書を使ったからと言って、必ずしも成績が上がるわけではなかった。

語彙テストの成績と各教員の授業における重点の置き方に関しては「自分のことを表現する(0.62)」「きれいに発音する (0.62)」「正確に読み解く(0.48)」「日本語に訳す(0.45)」「発音から接続法までしっかり学ばせる(0.47)」にそれぞれ正の相関が見られた。

個々の動詞の正解率の平均は 0.64 であり、正解率のピークを規準にすると高い方から 4 グループに分類できる。

第 1 グループには、「自己紹介」の文脈で多用される動詞、英語からその意味を類推可能な動詞等の明確な意味的・語形的特徴がある。第 2 グループにも空間的な位置関係や移動を表すと解釈できる動詞が比較的多い。それに対して、第 3 グループ以降には共通する意味的・形態的な特徴は見られない。しかし、構文的な特徴としては、正解率が低いグループになるほど、分離・非分離動詞の比率が増え、より複雑な構文で使用される動詞が増える傾向が見られた。

教科書での使用と正解率を規準に分析すると、教科書に登場した動詞をどれ位取りこぼしなく学習できたかが語彙テスト結果に影響していることが分かった。

なお、本調査で用いた動詞 100 題からなる語彙テストについては、選択肢を 1 つ減らした 4 択の簡易版をドイツ語オンライン自動採点ドリル DGSG 上に移植し、公表した。

今後に残された課題としては、さらなる 50 ないしは 100 語の動詞について引き続き調査を行うと共に、名詞 300~400 語、および形容詞 100 語程度に関しても同じ形式での語彙調査を進める必要がある。また、初年度に行った、IDS (Instituts für Deutsche Sprache) の話し言葉コーパスを利用した調査データの公表なども引き続き行っていきたい。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 15 件)

1. 吉満たか子 (2017): ドイツ語学習における映画鑑賞の効果, 『広島外国語教育研究』, 20, pp. 307-319, 査読有, 広島大学外国語教育研究センター .

DOI: <http://doi.org/10.15027/4263012>.

2. Harting, Axel (2017): Use(s) of the Mother Tongue in L2 German Collaborative Tasks, JALT 2016 Conference Proceedings, 査読有, 2017 [in print].

3. Harting, Axel (2017): Verwendung der L1 in aufgabenorientierter Partnerarbeit, Neue Beiträge zur Germanistik, 154 (Dimensionen der DaF-Forschung), 査読有, 2017 [in print].

4. Harting, Axel (2017): Partner- korrektur in der Zielsprache : Heraus- oder Überforderung der Lernenden?, 『広島外国語教育研究』, 20, pp. 169-183, 査読有, 広島大学外国語教育研究センター .

DOI: <http://doi.org/10.15027/42621>

5. 岩崎克己 (2017): 日本人初級ドイツ語学習者の語彙調査 (基本動詞 100 語) の結果分析, 『広島外国語教育研究』, 20, pp. 285-306, 査読有, 広島大学外国語教育研究センター .

DOI: <http://doi.org/10.15027/42629>

6. 吉満たか子 (2016): オーストリアの大学における入門・オリエンテーション段階の評価 : 学生側の評価を中心に, 『広島外国語教育研究』, 19, pp. 181-193, 査読有, 広島大学外国語教育研究センター .

DOI: <http://doi.org/10.15027/39678>

7. Harting, Axel (2016): Gruppen- und Partnerarbeit in deutschen und japanischen Deutschlehrwerken, 『広島外国語教育研究』, 19, pp. 165-179, 査読有, 広島大学外国語教育研究センター .

DOI: <http://doi.org/10.15027/39677>

8. 岩崎克己 (2016): STORYBOARD 型テキスト再生プログラム OLES を使ったドイツ語テキストの再生, 『ドイツ文学』, 49, pp. 5-21, 査読有, 日本独文学会中国四国支部 .

<http://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/00041467>

9. 岩崎克己 (2016): 日本人初級ドイツ語学習者の語彙調査 (動詞編) のために, 『広島外国語教育研究』, 19, pp. 195-211, 査読有, 広島大学外国語教育研究センター .

DOI: <http://doi.org/10.15027/39679>

10. 吉満たか子 (2015): オーストリアの大学

改革と入門オリエンテーション段階の導入, 『広島外国語教育研究』, 18, pp. 99-111, 査読有, 広島大学外国語教育研究センター .

DOI: <http://doi.org/10.15027/36834>

11. Harting, Axel (2015): L1 oder L2? - Ergebnisse einer Umfrage unter Lehrenden und Lernenden zum Sprachgebrauch im japanischen Deutschunterricht, 『ドイツ語教育』, 19, pp. 59-78, 査読有, 日本独文学会ドイツ語教育部会.

<http://www.vdjapan.org/bericht/duj/duj-19.pdf>

12. Harting, Axel (2015): German or Japanese? Students of German in Japan Evaluate their Teachers' Instruction Language, JALT 2014 Conference Proceedings, pp. 190-198, 査読有, JALT.

13. Harting, Axel (2015): Deutschlernende in Japan äußern sich zur Unterrichtssprache ihrer deutsch- und japanischsprachigen Lehrenden : Ergebnisse einer landesweiten Umfrage, 『広島外国語教育研究』, 18, pp. 113-126, 査読有, 広島大学外国語教育研究センター .

DOI: <http://doi.org/10.15027/36835>

14. 岩崎克己 (2015): オンライン型読解トレーニング用プログラム OLES - Online Lesetrainer für europäische Sprachen-, 『ドイツ語情報処理研究』, 24, pp. 1-19, 査読有, ドイツ語情報処理学会 .

http://130.34.131.66/sugiura/DDJ/DDJ_Archiv/dj25.pdf

15. 岩崎克己 (2015): 読解支援プログラム OLES とそれを用いたテキスト再生課題の実践, 『広島外国語教育研究』, 18, pp. 73-98, 査読有, 広島大学外国語教育研究センター .

DOI: <http://doi.org/10.15027/36833>

〔学会発表〕(計 13 件)

1. Harting, Axel: L1-/L2-Gebrauch in aufgabenorientierter Partnerarbeit, 42th Annual JALT Conference, Nagoya, 2016.11.26.

2. Harting, Axel: Using Facebook to improve L2 German students' socio-pragmatic skills, EUROCALL Conference, Limassol, Cyprus, 2016.8.25.

3. Harting, Axel: Sprachgebrauch und Spracherwerb in aufgabenorientierter Partnerarbeit, 日本独文学会 2016 年春季研究発表会, 獨協大学, 2016.5.28.

4. Harting, Axel: Written requests in German and

Japanese emails, 7th International Symposium on Intercultural, Cognitive and Social Pragmatics, Pablo de Olavide University, Seville, Spain, 2016.5.5.

5. 岩崎克己: WWW 上の各種フリーソフトを利用した数詞のオンライン型練習, 第 65 回日本独文学会中国四国支部総会・研究発表会, 香川大学, 2016.11.5.

6. 吉満たか子: 日独ドイツ語教科書の比較—文法学習について考える—, 第 25 回広島大学外国語教育研究センター 外国語教育研究集会 (シンポジウム「初修外国語の教科書 - 何をどのように教えているか? - 」), 広島大学, 2016.3.4.

7. Harting, Axel: Landeskundliche Lehrmaterialien aus dem japanischen DaF-Unterricht unter der Lupe: Vermittlung eines tradierten Deutschlandbildes?, DaF Kongress, Mexico City, Mexico, 2016.3.8.

8. Harting, Axel: L1 oder L2? Einsatzweisen der Muttersprache der Lernenden im DaF-Unterricht in Japan, Taiwan National University, Taiwan, 2015.12.19.

9. Harting, Axel: L2 German Students' perceptions regarding the Effectiveness of Fluency Tasks, JALT-Jahrestagung, Shizuoka Granship, Shizuoka, 2015.11.21.

10. 岩崎克己: STORYBOARD 型テキスト再生プログラム OLES を使ったドイツ語テキストの再生, 第 64 回日本独文学会中国四国支部総会・研究発表, 徳島大学, 2015.11.7.

11. 岩崎克己: 日本人初級ドイツ語学習者の語彙調査 - 動詞編, 広島独文学会第 97 回研究発表会, 広島大学, 2015.10.24.

12. Harting, Axel: Deutschlernende äußern sich zur Sprachwahl ihrer Lehrenden: Ergebnisse einer Umfrage zum Gebrauch der Lehrsprache im japanischen Deutschunterricht, JALT 2012 – 40 Annual International Conference on Language Teaching, Tsukuba, 2014.11.23.

13. Harting, Axel: L1 oder L2? – Ergebnisse einer Umfrage unter Lehrenden und Lernenden zum Sprachgebrauch im japanischen Deutschunterricht, FaDaF-Tagung, Chiba, 2014.5.24.

【図書】(計 4 件)

1. 吉満たか子 (2016): NHK テレビテキスト『テレビでドイツ語』2016 年 10 月号~2017 年 3 月号, NHK 出版,教科書, 編著、各号 72 頁.

2. 吉満たか子 (2016): NHK テレビテキスト『テレビでドイツ語』, 2016 年 4 月号~9 月号, NHK 出版,教科書, 編著、各号 72 頁.

3. 吉満たか子 (2016), オーストリアの大学改革 - ボローニャ・プロセスによるカリキュラム改革, 高等教育, ボローニャ・プロセス, オーストリア, in: 青木利夫/平手友彦編『世界の高等教育の改革と教養教育—フンボルトの悪夢, 丸善出版, ISBN: and978-4-621-30022-0, 全 166 頁.

4. 吉満たか子 (2015): NHK テレビテキスト『テレビでドイツ語』, 2015 年 4 月号~9 月号, NHK 出版, 教科書, 編著、各号 72 頁.

【産業財産権】

○出願状況 (計 件)
該当無し

○取得状況 (計 件)
該当無し

【その他】

ホームページ等
Online 型読解トレーニング用プログラム OLES
<http://lang.hiroshima-u.ac.jp/oles/>

言語学習ゲーム「数のおけいこ」(独・仏・英・中・韓・日)
<http://lang.hiroshima-u.ac.jp/ttn/main>

データベースを利用したオンライン文法練習課題生成システム DGSG (スマホ対応版)
<https://lang.hiroshima-u.ac.jp/dsgs/>

6. 研究組織

(1)研究代表者
岩崎克己 (IWASAKI KATSUMI)
広島大学・外国語教育研究センター・教授
研究者番号: 70232650

(2)研究分担者
ハーティング、アクセル (Harting, Axel)
広島大学・外国語教育研究センター・准教授
研究者番号: 80403509

吉満 たか子 (YOSHIMITSU TAKAKO)
広島大学・外国語教育研究センター・准教授
研究者番号: 20405311